

大阪府退教情報

2023年11月10日 発行第42号
発行者:大阪府退職教職員連絡協議会
代表:林誠子
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津
町7-11 大阪教組気付
電話 06-6762-7999

郷土発見ツアー第1回:河内ワイナリーへ

晴天の秋空の下 27人が羽曳野自慢の河内ワインを楽しむ



ぶどうの栽培をはじめた**明治時代**ではほとんど食用だったが、室戸台風が関西を直撃した昭和9年、台風被害でほとんど使い物にならなくなったぶどうを何とかできないかという思いが本格的なワインの出発点だったという。

第2のブームは外国に行けない人から「日本産のワインつくって」との要請があり、70年代・80年代と頑張ってきたそうだ。

工場内に入ると懐かしい「**ミゼット**」が展示されていた。この小さな小回りの利くオート三輪は**ぶどう棚の下**をくぐりながらぶどうの収穫をして回る**大活躍**の車だったという。

工場には、さまざまな大きさ・機能のタンクがいくつも並んでいる。つぶす・絞る・発酵させる・おりの除去など。ここで働く人がタンクの下部開口部にある穴から中に入って清掃する。ここでの入社選考ではこの穴を抜けられるかどうか重要なポイントだったと……。大変危険でもあり重労働であったことを想像した。

ちょうどお昼時になり、ワイン館（一階ワイン販売スペース）二階で試飲・ランチタイムとなった。



女性が半数の 13 人参加する行事に

姉妹・夫婦参加、お友達参加と多彩でした。

府退教林会長から、**郷土発見ツアー第一回目**として河内ブロックが担当し河内ワインの見学・試飲会が実現できたことに感謝の気持ちを伝えられた。その後美味しい昼食をみんなで食べながら、何種類ものワインの試飲を楽しみ交流を深めました。

その後、ワインや、ジュースをお土産に買って、帰りました。

天気も最高で 27 人の参加者は本当に大満足のわいわいわくわくツアーでした。
(文責：山下 和子)

やまないイスラエルの大量虐殺、私たちにできることは何か ひとりでもできる・今すぐできることをしよう

パレスティナとイスラエルの戦いは、10 月のハマスのイスラエルへの戦いから始まったと見るべきではない。少なくとも、1948 年、国際社会がイスラエル建設に関与した時点から見る。その後、イスラエルは、ことごとくパレスチナの人々の住む領域を脅かし侵略し続け、あの天井のない牢獄と言われる高い塙で遮られた「ガザ」に囲い込むという恐怖と虐待を 75 年間続けてきた。かつてナチスドイツによって 600 万人ともいわれる大量虐殺を受けた民族の為政者たち。そこから何を学んだのか。

日本政府は、ガザでの「人道的休戦」の提案に対してすら、棄権をした。ロシアのウクライナへの侵攻とイスラエルのガザへの侵攻・虐殺。その支援の考え方にもものさしは一つでなければならないはずだ。これ以上虐殺は許せない。私たちは、日本政府に対し、即時停戦に向けたあらゆる対応を強く求める。次の宛先に、メール・FAX を送ろう。もっといい知恵があれば連絡ください。一人でも多くの声を上げることから始めよう。

★「虐殺をやめて」 イスラエル大使館あて

: FAX03-3264-0791 : メール information@tokyo.mfa.gov.il

★「イスラエルに停戦を働きかけ、迫って」日本の外務省に

[メール mail-han@mofa.go.jp](mailto:mail-han@mofa.go.jp) 電話 03-3580-3311

★人道支援寄付先：国境なき医師団など各自インターネットで探してみよう。

抗議や要請なども岸田総理大臣など、送りたい相手を自分で探して送ろう。

(文責：林 誠子)